

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470205646
法人名	社会福祉法人 藤愛会
事業所名	グループホームハレ・クプナ
所在地 (電話番号)	広島県広島市西区山手町19番3号 (電話) 082-503-0081

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成20年12月17日

【情報提供票より】(平成20年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日	
ユニット数	2 ユニット	18人
職員数	13人	常勤 13人, 非常勤 0人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物形態	<input type="radio"/> 併設/単独	<input type="radio"/> 新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り 地上3階建2~3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000円	その他の経費(月額)	-円	
敷金	有(円)	<input type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="radio"/> 有(200,000円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/〇無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	
	または1日当たり1,500円			

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	18人	男性	2人	女性	16人
要介護1	5人	要介護2	5人		
要介護3	4人	要介護4	1人		
要介護5	3人	要支援2	0人		
年齢	平均 86.8歳	最低	77歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤山内科, 小田クリニック, 八丁堀平松整形外科消化器科病院, 梶川病院, 森田歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>グループホームハレ・クプナは、社会福祉法人藤愛会を母体とし、長年、高齢者福祉で培った経験を活かし、地域や利用者のニーズの把握に努めながら、地域に密着したホームとして地域の福祉に貢献されています。</p> <p>地域の高齢者の会(あゆみの会)の昼食作りの場所として施設を提供したり、町内会の会員として清掃などの行事に一住民として参加するなど、地域から頼りにされる関係を築かれています。</p> <p>また、職員は月1回のスタッフミーティングで、ケアの振り返りや研修会の報告、ホームの委員会(全職員が担当)での取り組みを話し合わせ、より良いサービスを提供するよう前向きに取り組まれています。職員のまとまりのあるケアにより、利用者は、日々の生活の中で、これまでの経験を活かされており、いきいきと穏やかに日常を過ごされています。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、特に改善課題はありませんでした。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を外部評価とともに日々のケアの実践を振り返る良い機会と捉えられています。職員全員が評価に取り組まれ、ケアの質の向上につながるよう活発な意見交換が行われています。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームからの報告をはじめとして、様々な立場のメンバーから活発な意見交換が行われています。運営委員会で出された意見や要望は、スタッフミーティングで報告され、サービスの向上に活かすよう対応を検討されています。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情等に関しての窓口や処理体制が明記しており、それに沿った対応が行われます。職員は、家族とのつながりを大切に、家族が要望や意見を表しやすい雰囲気づくりに努められています。要望等について、前向きに受け止めサービスの質向上に具体的に反映されており、対応結果についても家族に説明するように努められています。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの存在や意義が地域に理解されるよう町内会に加入され、地域の行事に積極的に参加されています。地域の高齢者の会(あゆみの会)の昼食作りの場所として施設を提供するとともに、職員も積極的に手伝うなど、実践を通して地域からも頼りにされています。1階のデイサービスが休みの日は、デイフロアを開放し、いきいきサロンを開催するなど、地域との連携ができています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人とのつながりを大切にし、地域の中で『ハレ・クブナ』でゆったりと笑顔で暮らしましょう。」という親しみやすい理念を掲げられ、家庭的な環境のもとで、地域の一員として、利用者の持つ力が発揮できるよう取り組まれています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月行っている職員ミーティングで理念を唱和するなど、周知徹底に努められています。ケアに迷いが生じたときなどは理念に立ち戻るなど理念が実践の拠りどころとなっています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの存在や意義が地域に理解されるよう町内会に加入され、地域の行事に積極的に参加されています。地域の高齢者の会(あゆみの会)の昼食作りの場所として、ホームの1階を提供するとともに、職員も積極的に手伝うなど、実践を通して地域から頼られています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を日々の実践を振り返る良い機会と理解されています。自己評価は基準を超えて年2回行うことを目標にされており、職員全員が参加し、活発な意見交換が行われています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催されており、利用者、家族、町民、民生委員、地域包括支援センター職員、併設するデイサービスの生活相談員、ホーム職員など、様々な立場のメンバーによる活発な意見交換が行われています。会議で得られた要望や意見をケアの質の向上に活かすよう努められています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類や報告書を市の窓口へ持参するなど、機会を捉えて積極的に情報交換するよう努められています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月園だよりを作成し、家族に送付されています。また、面会時や手紙、電話などで、ホームでの暮らしぶりや健康状態、金銭管理について、個別により詳しく報告されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情の受付及び処理体制を明記されています。また、面会時や電話などでは、家族が意見や要望を言いやすい雰囲気づくりを行うとともに、意見や要望を前向きに受け止め、要因を検討するなど、ケアの質向上に努められています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者の不安について、よく理解されていますが、退職やスキルアップのためのやむを得ない異動はあります。その場合には、必要最小限の異動に留めるとともに、引継ぎ時には、可能な限り、新旧職員のペアでケアにあたるよう配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、今年から教育担当者を決めて指導されています。また、職員ごとに育成計画を作成するなど、法人内外の研修の機会が確保されています。自主的に勉強会に参加した場合も研修内容をミーティングの場で報告するなど、職員同士が研鑽し合いながらケアの質の向上に努められています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換やケアの質の向上を目指した、グループホーム交流会(2～3か月ごとに開催)に自主的に参加し、同業者との交流を密にし、連携を図られています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族にホームを見学されることを勧められています。入居されてしばらくは、家族の協力をいただき、付き添いや面会回数を増やしてもらうなどの配慮をされています。また、入所時に対応した職員が、見守るなどして安心してサービスの利用が始められるよう取り組まれています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者から調理方法を学んだり、生活の知恵を教わるなど、支えあう関係を大切にされています。「できること」をしてもらう際には、強制することのないよう気をつけられています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、一人ひとりの生活習慣や嗜好などを把握するとともに、入居後も日々の生活や利用者同士の会話から利用者の思いや希望を汲み取るよう努められています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3か月ごとに介護計画を作成されています。ケアカンファレンスや意見書で、家族に意向を伺ったうえで、職員が意見やアイデアを出し合いながら、利用者の気持ちを反映できるよう取り組まれています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した期間での見直しとともに、状況に変化が見られた場合には、利用者、家族、職員で意見交換を行い、実情に応じたケアに繋がるよう、介護計画を見直されています。また、モニタリングをさらに充実されるよう意識してケアに取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他の部署と連携し、利用者や家族の状況に応じて柔軟な対応ができるよう努められています		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関で受診される以外に、利用者や家族の要望に沿った、かかりつけ医の受診も実施されています。なお、かかりつけ医の受診は、家族の協力を得て実施されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の安心が得られるよう、利用者にとっていちばん良い方法を早期から関係者と話し合い、方針を共有されています。また、主治医の助言をもちょうともに、体調が変化した場合は、その都度、家族へ伝えられています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者との話の内容に配慮したり、トイレ誘導の際の声のトーンに気をつけられています。また、個人情報記載された書類は、施錠できる書棚に保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、自室で食事をする方が気持ちが楽だと感じられる時には、そのようにするなど柔軟に対応されています。その時その時の利用者の気持ちを大事にしてケアにあたられています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けの際に、利用者のできることは職員と一緒に行われています。また、利用者の状態に合わせて、食事の量を調整したり、食材の切り方などを工夫されています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する入浴時間帯が、午後に重なるユニットでは、利用者の意向を重視し、一日おきで入浴されています。また、入浴を億劫がられる利用者には、声かけをして入浴を促されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や畑作業、デイサービス事業所のレクリエーションへの参加、趣味のクラブなど、利用者一人ひとりの持つ力が活かされるような様々な場が用意されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のお店で外食したり、散歩、買い物に行くなど、外の空気にふれることで、利用者の気分転換が図られるよう支援されています。また、家族との外出も希望に応じて行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解されており、危険と思われる時以外は、開錠されています。見守りにより利用者の安全に配慮し、特に、玄関には鍵をかけないように取り組まれています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、消防署の協力を得て、具体的に通報の仕方や消火器の使い方、避難誘導などの指導を受けながら、防災訓練を実施されています。また、地域住民へも災害時の協力をお願いされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事状況を記録し、摂取量が少なかったり、栄養が偏っていると判断された場合は、他の食べやすい物で補うようにされています。また、水分摂取についても同様に気をつけられています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは、住宅地に溶け込んでおり、共有の空間は、清潔で季節感、生活感のある空間となっています。テーブルやソファ、畳の場所が整えられており、利用者は、それぞれ居心地の良い場所でくつろがれています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れたものを持参するように、お願いされており、お気に入りの写真を飾ったり、好みの日用品が持ち込まれています。また、ベッドや家具は、利用者が使いやすいように配置されています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ハレ・クプナ (ハイビスカス)

評価年月日 平成20年 8月 31日

記入年月日 平成20年 8月 31日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 坂田 由紀子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念を掲げ、意識してケアに取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティング等で理念を確認し、実践に向けて取り組んでいる。	○	お一人お一人の持っている力を生活の中でもっと引き出せるようケアに努めたい。 法人の理念をもう少し意識し、実践していきたい。(地域貢献:町民の高齢化もあり、公園の草抜きが間に合わない。公園清掃の日に参加できない分、毎月1日に清掃に行く。)
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居時説明をしているが、全ての家族が理念をよく理解はされていないかもしれない。 理念について話す機会は持っていないが、ケアプランや近況報告、地域行事への参加等で入居者の方と地域とのかかわりの大切さを周囲に理解して頂けるよう努力はしている。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や行事、施設開放で顔を合わせることも増えており、良い関係が築けている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内行事(運動会・盆踊り等)に参加している。 施設でのクラブ活動に地域の方が参加されるなど交流を持っている。 町内の総会にスタッフが出席し地域の方々の意見を聞いている。 スタッフは町内のいきいきサロンがスムーズに行えるようにお手伝いをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方同士の交流が少ないので交流を持てるようお手伝いをしている（いきいきサロン、あゆみ会、パッチワーク教室など）。 介護教室の開催。 フラダンスやパッチワークなど入居者と地域の方が一緒に趣味を楽しむ時間を提供している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義を理解し具体的な改善に取り組んでいる。 評価後、見直しし取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	評価や取り組み状況について報告し、意見を取り入れ、改善・向上に努めている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	書類や報告書等できるだけ窓口へ持参し、情報交換するよう努めている。 質問や疑問があれば積極的に質問するようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員が学ぶ機会を持っていない（ご家族を中心にした勉強会はあり）。 運営推進会議にて勉強会を開いたり、研修報告にて話題に触れているが、詳しく勉強できていない。 （自主）研修のお知らせを掲示するようにしている。	○	今年度も何らかの方法で勉強会を持ちたい（参加できる時間を設定する）。 自主研修も必要。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修報告や事件があったときなど話題に出し、注意を呼びかけている。 研修等に参加し、報告をし意識の共有をしている。	○	勉強会を予定している（11月運営推進会議にて）。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	内容をひとつひとつ説明し、理解・納得を図っている。自宅へ持ち帰り再度読み返して頂くようお願いし、質問等があればいつでもお答えすることを伝えている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	ご家族からの情報をもとに普段の様子とつなげて反映させて考えている。利用者の方が意見等を言える関係作りに努めている。ボランティア受入れやクラブ活動、ヤクルト販売等で外部の人との交流を持つことで外部へ気持ちを表せる機会となっている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時や手紙、電話にて報告をしたり相談をしたりしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時は声をかけお話しをするようにこころがけている。面会時、近況報告を行い、その際意見、不満、苦情を聞きだすようにしている。苦情等は実情を確認し、改めて管理者より説明、改善の取り組みの説明をするようにしている。意見箱を設置している。	○	ご家族が聞きたい、話したいときに話せる位置に職員がいてきちんと受け答えをしていけるよう努めたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	実施できている。ミーティング等で意見を聞く機会を持っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	調整できている。前もって行事がわかっている場合は人数調整をしたり、ボランティアを増やしたりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	大人数の入れ換えは避け、時期をずらす等の配慮はしているが、馴染みの関係が築かれるまでは少なからず影響はある。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	運営者は職員ひとりひとりについて育成の計画を立てている。他部署でも色々勉強出来るよう異動もある(レベルアップも兼ねて)。法人内研修等研修の機会を設けている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者はグループホーム交流会に参加している。他施設の見学や見学を受け入れたりすることで話を聞いたり、参考になっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	趣味を持ったり他職員と話をしたりしストレス解消し、切り替えを行っている。連休を取り入れリフレッシュしてもらえるよう配慮している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	一緒に昼食を食べたり外出の手伝いをしたり、職員と会話する機会を持つことで職員個々の把握に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	聴く機会を持ち、限られた時間でご本人のことをできるだけ理解するよう努力している。デイサービスの利用からグループホームへ入居を考えていただくケースもある。職員や利用者の方と関係を築き、グループホームへの入居を考えていただくケースもある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	できるだけ理解し、力になれるよう努力している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	話をよく聞き、グループホームでの生活が適しているか、他のサービスの他のサービスの利用も含めて説明している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気次第に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人にも見学して頂けるようお話ししている。デイサービスを利用している方で職員と顔なじみになり、のちのちグループホームを利用したいとおっしゃってくださる方もいる。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理を一緒にしたり教えてもらったり支えあう関係を築いている。 できること、感じていることを行動に移す際、職員が邪魔をしているのでは？と感じるときがある。 良い面も悪い面もあり支えあう関係とまではいっていないように思える。 もう少し傾聴する時間が必要だと思う。 以前より本人との関わりが深くなるにつれ慣れも出て口調も変わってきている。	○	押し付けることなく、またお客様でもなく、一緒に過ごす仲間として普通の生活と同じように暮らしていけるよう心身ともに支えあえる関係を作りたい。 見守ること。 もう少しゆとりがほしい（職員人数増加）。 言葉遣いに注意する。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪されたときはできるだけご家族とお話するようにしている。 もっとご家族と協力し合えるような関係にならなければと思う。 相談できるご家族とは問題を共有し一緒に支えている。 イベント時に一緒に手伝ってもらっている。	○	できていないご家族もいるので職員が間に入り本人を支えていく関係を築きたい。 ご家族を呼んでの行事をもう少し増やすなど取り組んでいきたい。（誕生日前後に一緒にお祝いをするなど。）
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	より良い関係が築いていけるよう支援している行事などの参加を呼びかけ関係を継続していけるようにしている。 関係が築かれていくほど色々なお話が開けるようになった。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関係を維持できる方には支援している。 来訪者に来てもらいやすい雰囲気作り。 支援に努めているが、もう少し取組んでいきたい。	○	手紙を書いたり、はがきでの交友を持つ（ご家族にも相談する）。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が間に入り、関わりながら孤立しないように配慮している。 レクなど参加しなくても皆さんに声をかけている。 リビングの席など常に考えて対応している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	関係を必要とされている方には断ち切らないつきあいをしていきたい。 契約終了後もダメージの軽減やつながりを大切にしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望などを把握するようにしている。 会話の中から思いをつかむようコミュニケーションをとっている。 毎日の生活の中で感じたり、入居者の方同士の会話の中から希望・意向を気に留めるようにしている。	○	話を聴く姿勢・・・その時々で言い分も変わってくるので、その時々で話を傾聴することが大事。ご本人が話をしている“わかってもらえている”と感じていないと意味がない。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	記録やご本人、ご家族の話の中から把握することもあり、引き出す努力をしている。 馴染みの家具などを使用していただいている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の状況を記録し、職員それぞれが心身状態を把握するよう努めている。 できるだけ詳しく記録するように努め、情報を共有している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	いろいろな意見を聞き、より良いプランを、と考えている。 ご本人やご家族に話し合いに参加していただくこともある。 ご家族に手紙で意見等を聞いている。 ご本人からの意見が聞けていない方もいる。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要に応じて変更している。 ご家族に連絡を取り、ご本人にとってどうしたら良いかを考えている。 ミーティングにてモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録・情報は常に共有し実施、モニタリングも行っている。	○	共有していきべき記録が少ない方がいる。記録がケアプランにもつながっていくのでしっかりと記録していく。会話も記録する。

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	他部署と連携している。 ご本人やご家族の状況に応じて柔軟に対応出来るよう努力している。		
----	--	--	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	理美容ボランティア、ハーモニカ演奏、パッチワーク教室、消防訓練など協力しながら支援している。	○	こちらからの提案、提供が多いのでご本人の意欲や希望に応じて社会資源を活用していきたい。
----	---	--	---	---

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	管理者が間に入って話をしている。 リハビリや福祉用具の相談など必要に応じて連絡をとり、意見を聞き、支援に役立っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	介護教室や運営推進会議などを通じご本人やご家族、スタッフへアドバイスをいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	ご本人が安心して受診されるように支援している。 ご本人、ご家族の希望にそうようにしている。 かかりつけ医の継続、希望の病院について支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入居者の方が安心して受診できていると思う。	○	認知症の専門医とスタッフとの関わりがもっとあって、質問・相談ができるとよい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員に看護師がいることで状態をより良く把握することができ、日常の健康管理や医療活動の支援をしている。 看護師に常に相談をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院したときに早期退院の相談ができるかかりつけ医や入院受け入れ先がある。 できるだけ面会に行き、ご本人のダメージ軽減に努め、回復状態を病院関係者に確認している。 入院の際、管理者がこまめに連絡をとっている。 こちらの受け入れ可能な身体レベルを伝え、回復状況をみながら早期退院にむけて話をすすめている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	ご本人、ご家族、主治医とご本人にとって一番良い方法を話し合っている。 変化はご家族へ常に連絡、医師にも相談している。 ご本人、ご家族の希望を確認し、こちらで支援できるかどうか、こちらでできることの説明をしご本人にとって安心して過ごしやすい方法を探している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医に助言していただき、ご家族にもそのことを伝えている。 ご本人の状態を理解し、希望にそえるよう相談しながらできるかぎりのことに取り組んでいる。 職員も共に相談しながら支援している。 施設で「できること・できないこと」を見極めご家族へも伝えるようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	移り住む際には十分な話し合いを行っている。 環境の変化によるダメージについて説明し、防ぐための協力について情報交換をしている。 継続して欲しいことや支援の方法など詳しく伝えるようにしている。 住み替え後も協力・支援していくことを説明している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	申し送りノート・ケース記録等は記入後スタッフルームに置き、入居者の目にふれないようにしたり、書棚に施錠をしている。 意識して言葉を選んで話すようにしている。	○	書棚の施錠忘れがあるので注意する。 声掛けや話し方などまだまだ不十分なため、今後もプライバシーを損ねないよう意識していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	分かる力に合わせて接し、説明にも気をつけて支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	人手がなくいつもというわけにはいかないが、できることはできるだけ希望にそえるよう努力している。 時々集団生活を出してしまい、その人の希望にそって支援することから外れてしまうことがある。	○	希望にそえるように職員全員が協力し、工夫・努力する必要がある。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご本人の希望通りに努めている。	○	身だしなみにはもっと配慮していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の時間の雰囲気を大切にしている。 一緒に食事をし、配膳や片付けを手伝ってもらっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	できるだけ希望を聞いて用意するようにしている。 一人ひとりの状況に合わせて支援している。 お酒を飲む機会を持っている（忘年会、新年会、クリスマス会）。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの状況をみながらその人のタイミングにあわせて支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	午後（夕食前まで）の入浴希望者が多く全員の入浴が困難な為、一日おきに順番を変えながらの入浴を基本としている。 ゆっくりと入っていただけるよう努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼寝をしたり個人でゆっくり休んでもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	畑やレク、外出など楽しみごとがある。 色々考えて支援しているが、楽しまれているのか悩む。	○	毎日楽しい喜びのある日々にするにはどうしたら良いのか、今後も考え、取組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その人の能力に応じて支援している。 自己管理している方には買い物に出た際、ご自分で支払いをして頂くようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望にそって戸外へ出るよう支援している。 車の使用については希望にそえないこともあるが、できるだけ支援している。	○	もっと希望をかなえ戸外へ出たい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行けるように配慮し実現に努めている。 行楽等の機会を持ち支援している（花見など）。	○	機会を増やしたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話したり手紙をポストに投函している。 年賀状やお礼の電話など働きかけている。 年賀状、暑中見舞いなど声をかけているが反応がうすい。	○	荷物が届いたとき・来訪されたときにハガキを出してみてもどうか。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	職員一同気持ちよくお迎えしている。 いつでも気軽に訪問して下さるようコミュニケーションをとり、居心地良く過ごせるようこころがけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員も理解し取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、危険も予測している。 見守りのできるときは鍵をかけないようにしている（玄関）。 危険と思われるとき以外は開錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入室時はノックをし、不在時は本人の了承を得て入室している。 職員同士で情報交換し日々の状態、安全に配慮している。 そっと見守りさせてもらっている。 常に所在や様子をわかれようとしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	位置を移動したり見守りを強化したり、危険を防ぐ取り組みをしている。 一人ひとりの心身状態を確認し、行動を予測したうえで慎重に取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	対策を話し合い、状態に応じた事故防止に努めている。 食事時の見守り・薬の確認・一人ひとりの状態に応じ取り組んでいる。 食事形態に配慮している。 定期的に研修等をし、知識の範囲で対応している。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	火災時の訓練や救急対応についての研修は行っているが回数が少ないので熟知できていない。 急変や事故の時のマニュアルをスタッフルームに貼っている。	○	研修回数を増やす（実施回数を増やしていく）。 少人数制で皆が熟知できるようにする。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に研修等を行っている。 災害時は協力を得られるようつながりをもっている。 非常食を常備している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	転倒の危険、車椅子の方にも見守りしながら自由に歩けるよう介助している。 本人の意欲や機能を低下させないようなケアと一緒に考えるようにしている。 面会時や近況報告にて状況を報告し、リスクの説明や対策の提案、ご家族の考えを聞いている。 面会時積極的に話しかけているが、状況説明だけに終わり、リスクまで話せない時もある。	○	ご本人も一緒にいると説明しづらい時もあるので説明する機会をもうける。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックをし、顔色、表情からも変化に気付けるよう努めており、早期対応を心がけている。 ケース記録に記入し情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬把握に努めている。 わからないときは処方箋にて確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分摂取・運動など働きかけている。 一人ひとりの排便状態等を把握し、便秘の状態が続かないよう気をつけている。 便秘の方には腹部マッサージをおこなっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	声掛けをおこなったり自力での口腔ケアが難しい方は職員がケアをおこなっている。 自立されている方へは会話の中で軽く話をする程度。清潔保持は不十分。	○	自立されている方には口腔ケアの大切さが伝わるよう日頃よりさりげなく情報提供していかねばならない(資料、講演会、新聞、雑誌など)。 歯科医からも伝えてもらう。 イソジンうがいなどすすめてみる。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食記録し注意している。 量が少なかったり栄養が偏っていれば他の食べやすいもので補っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対策の取り決めがあり、実行している(手洗い、うがい、手袋の着用など)。 肝炎についてはもう少し意識したほうがよい。	○	C型肝炎の方の把握、全職員がわかるようにする。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	冷蔵庫で保管し食中毒には十分注意している。 定期的に調理器具を消毒し衛生管理を行っている。 清潔に努めている。		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	1階玄関は出入りしやすいよう全開にしている。 植物などを置き、清潔で明るい雰囲気をつくる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	いつもリビングに人が集まってこれ居心地良く過ごされていると思う。 花や飾りつけ、壁の掲示物など季節感が出せている。 壁には毎月その月に関するものを掲示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳、ソファの設置で過ごしやすくしている。 テーブルもわかれており、その時々で上手く使用されている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドの配置や家具の配置など本人や家族と相談し過ごしやすいようにしている。 本人の慣れた家具等を持って来ていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気・温度調節には気をつけている（入居者の方の状況によって）。 温度計を設置している。 トイレの臭いにはもっと配慮したい。	○	パッドの捨て方、トイレのゴミをこまめに集める、床の掃除をしっかりとするなど気をつける。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できるだけ自分でしてもらい、どうしてもできないところを手伝う。 居室環境の整備。 手すり・ナースコールの設置。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	カレンダーを日めくりにし今日が何日なのかがわかるようにしている。 トイレ、居室の場所を迷われる方がいらっしやるので表示、表札も工夫している。	○	新聞は古いものは見えないところへ片付けておきたい（それによって日にちを間違われることもある）。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	生活の場から見えるところに植物や畑があることで楽しみとなっている。 屋上にて洗濯を干したりベランダ・屋上・畑にて水遣りをしていたりしている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ハレ・クプナ (プルメリア)

評価年月日 平成20年 8月 31日

記入年月日 平成20年 8月 31日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 坂田 由紀子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	3つの理念に基づき取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を意識し取り組んでいる。 月1回のスタッフミーティングにて理念を復唱し、共有している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居時理念の説明をしている。 家族や地域に対して機関紙を発行している。 家族会やいきいきサロンにて理解していただけるよう働きかけている。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩、外出時は挨拶をしたり、会話が可能な関係作りに努めている。 町内行事に利用者や職員が参加したり、1階のデイサービスが休みの日にはデイフロアを開放し、いきいきサロンを開いたりしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	清掃や町内行事に参加し、交流に努めている。 町内運動会へ利用者と職員が参加したり、地域の会合へ職員が参加したりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	いきいきサロン、あゆみ会の昼食会、パッチワーク教室、フラダンス教室、音楽会など開催している。地域の高齢者の生活に役立つ話等、スタッフ間での話し合いはしていない。ハレ・クブナが地域とどうかかわるべきか、役割を常に考えている。(管理者)	○	町内の高齢者の実情や状況把握も含め、当事業所で行えることがあれば小さなことからでも行えればと思う。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	それぞれ意見を出し合っている。自己評価を実施することで理解し、改善に取り組む努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議での意見をスタッフミーティング等で報告し、話し合っサービス向上に活かしている。違った意見を聞き、話し合うことで良いサービスができるよう努めている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	できるだけ行き来する機会をつくっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	介護教室等で学ぶ機会を持つようになっている。権利擁護に関することが書かれた本や成年後見制度についてのリーフレットを読む等して学び、必要な方がいれば活用するよう心がけている。具体的に学ぶ機会が職員全員にない。	○	学ぶ機会を持ちたい。 11月に開催予定。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者の虐待が行なわれていないか入居者の状態には注意を払っている。研修に参加、研修報告にて学びの場がある。具体的に学ぶ機会が職員全員にない。	○	学ぶ機会を持ちたい。 11月に開催予定。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関わることは十分な説明と理解を得られるまでの話し合いを心がけている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の訴えは傾聴し、ケース記録への記入やケアプランカンファレンス等で話し合う機会を持っている。 ご家族の協力のもと反映できるよう努めている。 意見・不満などが言えるような関係になるよう努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	随時報告している。 異動や退職者が多くなってきており、家族から尋ねられたら答えるという機会が多いので、もう少し早く、上手に伝えられたらと思う。	○	家族への報告ノートを活用する(あまり活用されていないので)。 新入職員はその都度ご家族へ挨拶をするよう心がける。 制服に名札をきちんとつける。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会等で話を聞き、スタッフミーティング等で話し合い運営に反映させている。 意見箱を設置したり、家族の不満や苦情を直接聞きみんなに対応を考え取り組んでいる。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフミーティング等で職員が意見を言う、意見を聞く場があり反映できている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務を細かく調整し協力しあっている。 欠勤時は早めに管理者へ連絡し、シフト調整を行なっている。 必要な職員は確保している。	○	職員同士が意識して報告・連絡・相談をしていけばもっと良くなると思う。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	最小限の異動になるよう運営者にも交渉している。 大きく異動はないものの最初はダメージがあるかもしれない。 新しい職員には教育担当者をつけて利用者へのケアの継続性を保てるように配慮している。	○	異動があっても今いる職員で良いケアができるよう、信頼関係ができるよう頑張りたい。
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には教育担当者を決めてトレーニングしながら働いていけるようにしている。 職員育成に努めている。 職員は法人内外の研修の機会を持てるようにしている。	○	マンツーマン指導にて働きながらトレーニングすることは良いと思うが、それには周りの職員の協力が必要である。 仕事を教えるためにあえて仕事を残しておくことも必要。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との意見交換や勉強会にてサービス向上に努めている。 施設外の研修や講座の案内をすることで、同業者との交流の場を持つことができている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員同士で意思疎通を図り、協力して一人ひとりの負担を皆で補うようにしている。 運営者は定期的に巡回して職員の様子をみたり、話を聞いたりしてストレス軽減に努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員の勤務している姿を直接見て話をしたり、業務日誌にて状態を把握し向上心を持って働けるよう考えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	安心した環境づくりができるよう、ご本人から何でも聞けるよう、信頼関係を築く努力をしている。 新規利用者や見学者には職員一同が気にかけてすぐ相談にのることができるよう頻りに声掛けや見守りを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前に面接を行ない話を聞いている。 家族の要望を聞いて受け止めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族が必要としている対応に努めている。 他サービス利用も含め対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学する場を設け、雰囲気を見ていただいている。 本人に見学していただき、納得して入居していただくよう努めている。 新規利用の際はご家族が付き添ったり、初期対応者が見守る等なじみやすいように工夫している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に学ぶ姿勢で支えあいながら一緒に過ごしている。 入居者からたくさんのかんことを学んでいる。	○	常に頭においているが、満足せずいつも考えて行動したい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族にも協力してもらっている。 家族の意見も反映したケアになるよう努めている。 同じ立場に立って支えあっている。 もっとご家族と協力しあうことで良い関係が築けると思う。	○	意識し、ご家族と話し合う場をもっとつくっていききたい。
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	行事等に参加していただいている。 ご家族の話を利用者から聞くように努め、ご家族の疑問や助言を聞く機会を設けるように心がけている。	○	面会時や行事の際、利用者と家族が話す機会が持てるよう支援したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族以外の人にも訪問を気軽にでき、本人も気軽に外出できるよう工夫している。 馴染みの人、場所の詳しいところまでは職員は把握していない。	○	ご家族に聞いたり、その方との会話の中で見つけていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	関係を把握しており、問題がおこったときは職員が間に入るようにしている。 利用者同士の関わり合いがスムーズになるように争いになりそうときは職員が介入するよう努めている。	○	口論になったときは、ただ間に入るのではなく、上手く取りもつような声掛けをしたい。 会話が弾んでいる時はあえて何も言わず、その時間を大切にしたい、そのような時間を増やしたい。 孤立感のある方もいらっしゃるの、その方のペースにも配慮しながら関わりが持てるよう日々の取り組みや行事などで支援したい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ご家族の意見もあるが、つきあいは大切にしたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いを大切にしよう心がけている。 本人の意向にそったケアに努めている。 本人の希望や意向が話の中でさりげなく聞けるように努めている。	○	職員の申し送り時、散歩の希望があった場合は、申し送りの時間をずらすなど各フロア協力する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ケースファイルに生活暦がとじてあり、職員が閲覧できるようになっている。 ご本人、ご家族の話やケース記録で把握に努めている。	○	知らないことはたくさんあるので今後も把握に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の状態を記録することで職員皆が把握できるようにしている。 職員の情報交換によって把握に努めている。	○	記録を詳細に記入するようにし、当日の勤務者でなくても分かるようにしたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスで意見交換している。 全てのご家族ではないが、ケアカンファレンスに参加していただいている。 意見書にてご家族に意見をいただいている。	○	ケアカンファレンスに出席できない職員の意見を聞くため、事前に連絡ノートにて意見を求める。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に変化がみられたら意見交換し、見直しを行なっている。	○	ご家族の意見や職員間での話し合いは行なわれているが、過程であるモニタリングをもっと充実させたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の気づきを記録し、状況を共有し、介護計画に役立っている。	○	異動もあり情報の共有が不十分のため、情報の統一を図りたい。 記録をもっと詳しく記入する(状況、スタッフの対応・声掛けの内容、それに対する相手の反応など)。

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	できるかぎりの支援をしていきたい。 デイサービスと協力するなど柔軟に対応するよう心がけている。		
----	--	--	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	十分でないところもあるが努力している。	○	入居者の趣味や施設の取り組みとして、必要に応じてボランティアを探す努力もしていきたい。
----	---	---------------------	---	---

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のケアマネージャーへ相談することもある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	連携し意見交換している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医に定期的に往診や受診をすることで本人が適切な医療が受けられるようにしている。 ご家族にも状況を報告し受診に協力してもらっている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	関係が築けており、相談し、それにあった治療方法を考えていただけている。 入居者に対する理解が得られている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	気軽に相談や支援を行ってもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	退院後どうケアしていくか話し合い、早期退院にむけて連携がとれている。 職員へ入院中の様子について随時報告し、ご家族とも話をし、ご本人が安心して退院できるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	主治医の助言をもらったり、変化はその都度家族へ伝えている。 早期に関係者と話し合い、方針を立てて共有している。 ご本人にとって一番良い方法を話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族、医師、職員と相談しながら支援に取り組んでいる。 終末まで支援していきたい。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	情報交換を行うよう努めている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉かけを意識している。 トイレ介助時は必要最低限の介助になるよう工夫している。 申し送りノートや記録は片付けるようにしている。 書棚の施錠を行なっている。	○	入居者の前での話の内容、トイレ誘導の声掛けには声のトーンなどプライバシーに配慮する。 個人情報のゴミは箱にためずこまめにシュレッダーにて処分する。またはちぎって捨てる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自分で決めてもらえるよう工夫し支援している。 本人の希望や訴えを傾聴し、納得がいくまで説明したり聞いたりする。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できるかぎりその方のペースにあわせるよう心がけている。 居室で過ごしたい方には無理にリビングへ出てきてもらわず、定期的に訪室する等個別対応している。	○	スタッフ同士話し合い、協力しながらご本人のペースを大切に過ごしてもらえるように支援したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	--------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	希望に応じて支援している。 身だしなみを意識していただくため、着る服を選んでいただいている。 洗面時見守りをし、身だしなみに気をつけている。	○	家族の了承が得られる方は一緒に服を選んで購入し、その人らしいおしゃれができるよう支援したい。→ その日にすぐ買い物に出ることができないので買い物の日を前もって設定し、少人数でかきたい(買い物ツアー)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その日の体調をみながら出来るところは役割として一緒に行なっている。 食事配膳時、ご飯やおかずの量をうかがっている。	○	下膳・服薬・点眼・口腔ケアのタイミングに配慮したい。 食事中に動くときはさりげなく行動する。 食器洗いは団らの雰囲気をごわさないように行う。 職員は入居者の方と一緒に食事やおやつができるよう自分の行動を考える。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望にそって提供するようにしている。	○	お酒を飲む機会を増やしたい。(飲める量や服薬とのリスクに配慮し行う。) 希望のあったときに買いに行けるようにしたい。 買い物時、ご本人が好みのものを購入できるように話題をふってみる(買いたい物を忘れていらっしやることもあるため)。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄間隔、尿意がある場合の行動などを見てトイレへお連れし、気持ちよく排泄できるよう支援している。 排泄パターンをつかむよう努力している。 日中は布パンツ夜間のみ紙パンツ等の工夫をしている。	○	パッドや紙パンツをはずせる方がいらっしやるのではないかと。 パッドが上手くあたっていないことがあるので気をつけるとともに上手くあたっていなかったときは教えてあげるようにする(次回から気をつけることができる)。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望に合わせて入浴してもらっている。 ゆっくり入っていただけるよう配慮している。	○	個人に関わる時間が増えている分、特に午後からは職員同士流れを確認し、お互い協力して行動する。 食事介助をしながらのリビングの見守りは困難なのでリビングには常に職員がいるようにしたい、入浴(介助)の時間をずらす等の配慮も必要。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	状況に応じて休息されている。 安心して眠っていただけるよう不安なことは話を聞き、何か希望があれば状況に応じて支援している。	○	夜間、居室やトイレのドアの開閉音が響くので緩衝テープを検討する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	散歩やドライブ、季節行事を行なっている。 金魚のえさやりや水遣りなどの役割がある。	○	日常的に喫茶店へ行きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ヤクルト購入や買い物の機会を設けている。 能力に応じて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望に応じて散歩の付き添いや買い物を一緒に行なっている。 お誘いするよう心がけている。	○	機会を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	遠出（行楽）や野球観戦などの機会をつくっている。 外出の機会がADLの低下とともに減ってきている。 ご家族の協力もあり支援できている。	○	機会を増やしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話されている。 年賀状を書いておられる。	○	希望がなくても働きかけていく。働きかけることも大切。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	必要に応じて食事を居室へ配膳したり、椅子を用意したりして居心地よく過ごしていただけるよう心がけている。 施設の掃除、明るさ、挨拶等努力している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	理解し取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	危険を予測しながら状況に応じて取り組んでいる。	○	見守りのできる日中は玄関等開放する時間を多くしたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	申し送りにて把握し、安全に配慮している。 居室に閉じこもりがちの方は定期的に訪室して様子を見守っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一律になくさず、見守りをしながら取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のための見守りや再確認等取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	いざとなると不安になる。 定期的な訓練にいたっていない。	○	急変対応について学びたい。(実施にむけて準備中。)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	訓練を行なっている。 地域の方にも協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	管理者を中心に入居者のかかえるリスクとその対応を家族と話し合い、対応方法を職員と共有している。	○	行方不明時の対応マニュアルの把握に努める。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	病気を把握し、変化に気づき対応ができています。 毎日バイタルチェックを行なっている。	○	状況や受診等の必要性をスタッフ全員で確認、把握し対応に努める。(大丈夫と思いたまわない。)
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	把握するよう努めている。 わからないときは確認できるように処方箋をケースファイルにとじてある。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	把握・予防に努め、対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態に応じて口腔ケアの介助を行ったり、声掛け、誘導を行なっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態に応じて食事量や皿の種類など配慮している。 水分量にも気をつけている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいを実施。 口腔ケアや汚物処理時の取り決めがある。 感染予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	手指消毒、エプロン着用、調理器具の消毒等を行なっている。	○	食材の使い忘れがないようボックスを利用し食材の管理に努める。 賞味期限に気をつける。 個人の食品には記名をする。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	日中なるべく玄関を開放して出入りしやすいようにしている。 お花や季節にあった飾りつけ、電気をつけ明るくしておく等心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活感や季節感を大切にしている。 生活の邪魔になる大きな物をたてないよう業務中努めている。 掲示板に習字や写真があり、楽しみにされている。	○	季節感をだしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルを数個に分けてあったり、ソファが設けてあるので思い思いに過ごせるよう工夫してある。 畳、ソファがあり居室とは違った雰囲気が楽しめるようになっている。	○	畳の上に洗濯物が置いてあり座れない状態になっていることがあるので、早めに片付けるよう気をつける。 古い新聞がそのままになっているので新しい新聞を読んでいただけるように配慮する。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたものを持参していただけるようご家族へ相談している。 好みのものを置いたり、ベッド等ご本人の使いやすい配置にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	臭気や熱気がこもらないように随時換気をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりをつける等工夫している。 備品や家具の整頓を常に心がけている。 フロア・トイレ内ともに安全にせいかつできるように工夫している。	○	トイレのタオルハンガーを持たれることがあり危険なため取り外す。 14番・15番トイレに手すりがほしい。 浴槽内のオーバルリンクはすべるので更新する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	備品や家具がいつも同じ場所にあるように気を配り、混乱を防ぐようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋上の水遣り、ひなたぼっこ、畑での園芸、ベランダの洗濯干し等、空間を活用している。 建物の外に植木や自販機もあり楽しめるようにしている。	○	ベランダに新しい花を植えたい。